

会 議 録

1 会議名

平成29年度 第10回高田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 諮問事項 (仮称) 旧第四銀行高田支店の設置について (通知) (公開)
- (2) 北本町ガス供給所について (公開)
- (3) 諮問事項 高田駅前コミュニティルームの廃止について (答申・通知) (公開)
- (4) 自主的審議事項 上越地域医療センター病院の改築について (意見書) (公開)
- (5) 自主的審議事項 高田公園周辺の雨水排水対策について (公開)

3 開催日時

平成29年11月20日 (月) 午後6時25分から午後8時22分まで

4 開催場所

高田公園オーレンプラザ 会議室

5 傍聴人の数

7人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：西山要耕（会長）、高野恒男（副会長）、吉田昌和（副会長）、
青山捷一、飯塚よし子、浦壁澄子、大滝利彦、小川善司、北川 拓、
小林徳蔵、佐藤三郎、澁市 徹、杉本敏宏、高橋浩輔、松矢孝一、
宮崎 陽、山中洋子、山本信義、吉田隆雄
- ・ 文化振興課：山本課長、大友副課長、小池係長
- ・ 産業振興課 商業・中心市街地活性化推進室：岩崎室長
- ・ ガス水道局：石田参事
- ・ ガス水道局 維持管理課：飯塚課長、永森副課長、藤澤係長、今川主任
- ・ 都市整備課：佐々木課長、長谷川副課長
- ・ 河川海岸砂防課：中村副課長

- ・下水道建設課：嶋田課長、小林副課長、長谷川係長
- ・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、槇島係長、小林主事

8 発言の内容

【槇島係長】

- ・小竹委員を除く19名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【西山会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：西山会長、澁市委員

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【西山会長】

「議題等の確認」について、質疑を求めるがなし。

—諮問事項（仮称）旧第四銀行高田支店の設置について（通知）—

【西山会長】

次第3報告(1)「諮問事項（仮称）旧第四銀行高田支店の設置について（通知）」に入る。

文化振興課に説明を求める。

【文化振興課 山本課長】

当日配布資料No.1により説明。

【西山会長】

文化振興課の説明について質疑を求める。

【山本委員】

この諮問理由には、「銀行建築の空間の魅力をいかした」とあったが、建物の外観、景観遺産の魅力も市民にアピールし、観光の目玉にしていくべきではないかと思う。

市が示したのは建物の中の空間の魅力だが、もう少し幅広く外観についても市民に生かしてもらい、あるいは地域行事や地域全体で外観を守っていくという施策を講じるべきではないかと思うが、どうか。

【山本課長】

ご意見のとおり考えている。

昭和6年からの歴史があり、外観、外壁、ホールの内装は特徴的なので、今回の整備ではその意匠を極力壊さないという基本的な考えにより行っている。

内部工事はこれからだが、完成後もこれまでの状況とほとんど変わらない。

意見のとおり、歴史的な趣もPRしながら、施設を広くみなさんに紹介していきたい。

【山本委員】

是非そうしてほしい。

今後はたぶん駐車場等の整備になると思うが、これも旧銀行の外観を壊さない範囲や形で整備をするなど、建物全体を旧銀行のイメージを壊さないように進めていくことが、これから先のことを考えると大事なことだと思うが、そのように考えているか。

【山本課長】

駐車場等は現状に手を加えないよう考えており、今は工事で現場事務所や足場があるが、整備後は建物がきれいになり、駐車場はそのまま変わらない。

【西山会長】

他に質疑を求めるがなし。

—北本町ガス供給所について—

【西山会長】

次第3報告(2)「北本町ガス供給所について」に入る。

今年5月に、ガス水道局から北本町ガス供給所で行う調査について説明を聞いた。本日は、その後の経過報告をいただく。

ガス水道局に説明を求める。

【ガス水道局 石田参事】

北本町ガス供給所敷地内における土壌調査結果の説明の前に、北本町ガス供給所のガスホルダーという大きなタンクについて、今年10月から11月上旬に解体工事を実施し、撤去を完了したことを報告する。

今回の土壌調査は、敷地内の特定有害物質の汚染状況と範囲を確認するため、環境大臣が指定する調査機関へ委託した。

結果をまとめると、土壌からは敷地の一部で基準値を超える特定有害物質が検出されたものの、地下水への浸透は認められず、敷地内への立ち入り禁止制限をかけている現状では特段の対策は必要ないという報告だった。

次に、担当課長が詳しい説明を行う。

【維持管理課 飯塚課長】

当日配布資料No.2により説明。

【西山会長】

ガス水道局維持管理課の説明について質疑を求める。

【宮崎委員】

ここは今後ずっと使わないと理解したが、それでよいか。そんなことはないか。

【飯塚課長】

今後、どのように維持管理していくかということだと思う。

図にあるように、120区画のうち52区画が汚染という調査結果であり、すぐに活用できる土地ではないという認識を持っている。分析が済んでいないので、しばらくの間地下水の調査等続けながら、今後の利活用を検討していきたい。

【宮崎委員】

本当に使わないと捉えてよいか。

【石田参事】

今説明したとおり、今後も地下水の調査を継続する。平成27年度に始めているので36年度までの10年間は年1回。

今後数年は状況を監視し、仮に浸透していくことはないということであれば、新たにどのように利活用できるかをもう少し調査し、数年の中で整理していきたい。

【吉田隆雄委員】

ここにガスタンクがあったことから、微量でもシアン化合物や鉛が出たのか。

【飯塚課長】

ガスタンクがあったからではない。

かつてここで、石炭を原料とした製造ガスを製造していたので、その時に使用もしくは生成されたもの。製造過程で、有害物質が出たと考えている。

現在は、国際石油開発帝石（株）からきれいな天然ガスを受けておりその心配はないが、過去にそのような石炭ガスを製造していた跡地であることが原因だと考えている。

【吉田隆雄委員】

石炭を乾溜（かんりゅう）しガスとしてガスタンクにためておいたためではなく、石炭を乾溜する作業現場に、この有害物質があったということか。

【飯塚課長】

そのとおり。

【山本委員】

今回敷地を調査したが、敷地外や近隣町内への影響はないと判断し調査したのか。

【飯塚課長】

平成27年から調査をしている。27年は敷地外の消雪井戸等も調査した。その時点で汚染が確認されていない。

図の青い地点でも引き続き地下水調査を実施しており、汚染が出ていないことを確認している。

【高野副会長】

36年まで行う毎年1回の調査結果を報告してほしい。また30年度にタールが検出された一か所を掘削除去した時にも、報告を。

【飯塚課長】

了解した。

なお、地下水の調査結果はホームページで公表する。また、30年度のタール部分の除去についても、事前に近隣町内に説明の上、工事を進めていく。

【高野副会長】

願います。

【西山会長】

他に質疑を求めるがなし。

—諮問事項 高田駅前コミュニティルームの廃止について（答申・通知）—

【西山会長】

次第3報告(3)「諮問事項 高田駅前コミュニティルームの廃止について（答申・通知）」に入る。

事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1により説明。

【西山会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

—自主的審議事項 上越地域医療センター病院の改築について（意見書）—

【西山会長】

次第3報告(4)「自主的審議事項 上越地域医療センター病院の改築について（意見書）」に入る。

事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.2、当日配布資料No.3により説明。

担当課による説明は、次回以降に予定。

【西山会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

—自主的審議事項 高田公園周辺の雨水排水対策について—

【西山会長】

次第4議題(1)「自主的審議事項 高田公園周辺の雨水排水対策について」に入る。

前回会議でお願いしたところ、委員からいくつか質問が提出されたことから、本市担当課に説明を依頼した。

杉本委員、高橋委員から、台風21号の状況について質問があった。澁市委員からの質問は、三役で協議し、全ての委員が理解するには難しい内容も多いのではないかと考えた。このことから、できれば今回は台風21号の件を中心に説明を受け、その中で澁市委員の質問に関するものがあれば、合わせて説明いただければと考えている。

担当課に説明を求める。

【下水道建設課 島田課長】

当日配布資料No.4、5により説明。

【下水道建設課 小林副課長】

当日配布資料No.5の被害状況を、当日配布資料No.4の図面にオレンジ色で網掛けしてある。

【河川海岸砂防課 中村副課長】

高田公園のお堀については、北堀と西堀の西側市道で道路冠水と一部床下浸水が発生。水戸の川は、下流部の農地が冠水したほか、視察研修で現地確認した東城町3丁目の水位計がある場所で冠水。

関川の水位、水門と排水機場の操作状況については、10月23日未明に雨が強くなり5時25分樋門閉鎖開始。この時の関川水位7.6メートル、宅地側水位6.8メートル。5時30分樋門閉鎖完了し、同時にポンプ2基を稼働。ポンプを連続稼働し、14時32分ポンプ停止し樋門開放開始。この時の関川水位6.78メートル、宅地側水位6.27メートル。14時42分樋門開放終了し全開。

なおポンプ稼働中、吸水口に詰まったわらゴミの排除作業を1回実施。

【嶋田課長】

北城雨水幹線の状況は、マンホールを開閉した確認はしていないが、状況からすると満管状態だったと推測している。

北城地域の浸水被害については、関川の水位上昇に伴い樋門が閉鎖していた中で、

排水ポンプの能力を超えた降雨により、内水（宅地の周りの水）の排水がうまく行えなかったため、内水の水位が上昇し、低い場所で浸水被害が発生したのと考えている。

今回の台風については、関川の水位がかなり上昇したことに伴い支川の水位も上昇したため、降雨量のわりに大きな被害が出たと推測している。

【西山会長】

ただ今の説明について、質疑を求める。

【北川委員】

浸水被害状況が、リアルタイムに近い形で分かる方法はあるか。例えば交通規制が必要な場合もある。何を見て情報収集すれば早いか。

【小林副課長】

交通規制の情報発信を行っているか、という意図か。

【北川委員】

発信していればそれを見ればよいだろうが、まずはそのようなものがあるかどうか。

【小林副課長】

通行止め等については、現地で規制するのみで情報発信は行ってはいない。大規模なものになれば情報発信するが、道路冠水等で一時的に通れなくなり迂回路を設けている状況に関しては、現在のシステムではできる状態にはなっていない。

【北川委員】

今回、渋滞したり車が止まってしまったりしたことはあったか。

【下水道建設課 長谷川係長】

台風当日に朝5時過ぎからパトロールに回った際、県立中央病院の近く、鴨島周辺の冠水した所で、私が見ている前で車が水の中を進み止まってしまった。この鴨島の1件の他は聞いておらず、高田区内でもそのような情報は入っていない。

【北川委員】

通勤時間帯に重なる場合もある。もしそのような情報が分かれば、難しいかもしれないが情報発信してもらえるとありがたい。

【吉田隆雄委員】

水戸の川の集水面積は、どのくらいか。高田公園周辺に降った雨は、外堀に入り、水戸の川を流れて行く。ポンプの所にはその他の町内からも水が流れてくる。集水面積が分かれば、時間何ミリの雨が降ったと報道された時にすぐに計算し、ポンプの能力と比較すれば、能力を超えている、超えていないということがすぐに分かる。

国がポンプを設置する時には、集水面積と想定する時間雨量から必要な能力を計算し、その結果2基と考えたと思う。その集水面積を教えてください。

次に私の提案。降った雨は最終的に外堀に入ってくるが、わざわざ外堀から水戸の川を通してポンプがある所まで流さなくても、適度な能力があるポンプを外堀のすぐ近くに設置し、関川に直接流したほうがよほど近い。それほど圧力をかける必要はないと思う。そのようなことは考えられないか。

水戸の川へ流すと、水量が増した時にオーバーフローして、田んぼのわらがポンプに詰まるというような話も出てくる。公園近くにポンプを設置したらどうかと思う。

【中村副課長】

集水面積と降水雨量から計算し、ポンプ能力と比較するという点については、視察研修の際に設置者である国土交通省の方から説明があった。ポンプ能力は毎秒1トン、これが2基で計2トン。

その設定根拠ははっきり承知していないが、その際、流域面積は2.7平方キロと聞いたと思う。7.11の出水が発生した場合に宅地に湛水させない、10年に1回程度の内水被害の場合に床上浸水を防止する、という条件でポンプ能力を設定したということだった。

ポンプ能力の毎秒2トンは非常に大きな数字だが、基本的に自然流下能力には到底及ばない。現状の水戸の川の流下能力に比べても、半分以下の能力しかない。

我々が皆さんにお伝えしたいのは、関川の水位が上がると逆流してしまうので、どうしても樋門を閉めなければならない。そうすると河川が持つ流下能力、処理能力と比べ、(ポンプ排水だけでは)著しく格段に能力が落ちてしまうということ。

今回は、対岸の鴨島では床上浸水がたくさん発生し、幸い高田では発生していないが、樋門を閉めてしまうと、そのような状況になる。雨が降ってどのくらいでポンプが動くかという、関川の水位が上がった段階で樋門が閉まりポンプが動く。

樋門とポンプの操作を始める水位については、先ほどの数字のとおり。その水位

は、JCVのチャンネルに出ているほか、高田河川国道事務所や県により河川情報がインターネットで見られる。関川の状況を確認しながら、自身の対応を考えてほしい。

次の、外堀から直接ポンプで排水するという提案。我々にはそのような発想がなかった。

水戸の川は、お堀から始まり色々な所を大回りして水を集めながら関川へ流れている。先日から説明しているとおり、外堀から雨水幹線の水路を作る計画を持っている。その流れの最後にある排水機場については、先日国土交通省では床上浸水は防ぐことができたということだったが、ポンプ増設ができるということなので、要望していきたいと思う。

外堀にポンプを設置して流すことについては効果的かどうか、疑問もある。

【小林副課長】

市では雨水排水を、極力ポンプに頼らない、あくまで自然流下の方法で計画している。下水道雨水幹線を全て整備した場合に、水戸の川排水機場へ流れる排水量を全てポンプ圧送で関川に流そうとすると、現状2基のポンプを10倍くらいにしないと全てを出し切ることができない計画になっている。

自然流下だと、それだけの水量が流れていく。今回は、たまたま2回連続して関川の水位が上がってしまったが、関川の水位が上がらない状況では、自然流下の計画で管渠（かんきょ）を整備し関川に流すのが最も効率的だと考えている。

地震や複合的な災害が発生した時に、ポンプは電力確保が必要になる。電力が確保できず発電機を動かした場合も燃料に限りがある。災害でポンプを長時間継続して動かすことは厳しいので、自然に流れていく方法で整備していきたいと考えている。

【吉田隆雄委員】

自然流下で全く冠水等がなければ大変結構だが、それでは間に合わないからポンプを設置しているのだろう。

今の地震の話もちろんあるだろう。阿賀野川にあれだけポンプ場がある。阿賀野川より低い田んぼから全部ポンプで上げている。それを考えると、それほど地震を心配することはないと思う。

また、集水面積の2.7平方キロ。私も偶然この数字を持っており、計算した。時

間当たり30ミリの雨1時間分の雨水を全部ポンプで関川に流そうとすると、3日くらいかかる。自然流下で関川に流れていくうちはよいが、樋門を閉めてしまったらポンプで出すしかない。それを考えた時に、時間50ミリ降ったものを全部関川へ出すのにどのくらいかかるか。

それが例えば50ミリ、昔と違い今は。

【西山会長】

簡潔な発言を求める。

【吉田隆雄委員】

では打ち切る。

【澁市委員】

私はバックグラウンドが農業土木でこのようなことが専門なので、常識的な話として質問したのだが、三役の方は、かなり専門的であり回答不要とされた。三役に申し上げたい、このようなことがあったのなら事前に私に文書で回答いただくようにしていただきたかった。

以前の説明時に、上越市公共下水道事業計画雨水一般図をいただいた。日本の下水道は汚水と雨水を分ける分離方式。9月25日の朝日新聞の記事には、汚水管にばかりお金をかけて雨水管の整備率が非常に悪いとある。雨水幹線の図と湛水区域の図は完全には一致しないが、雨水幹線の整備状況はどのくらいか。

もし雨水幹線が整備されていれば、このような湛水はだいぶ減ったのではないか。雨水幹線の計画諸元は。最低、それくらいは教えてほしい。

高田区の雨水幹線は、ほとんど整備されていないと理解している。仮に、この地域協議会で専門知識がない私たちが議論し、北城高校前の外堀だけ湛水しているからそれにかかる施策をしてほしいと言ったら、他の地域も未整備なのだから怒ってしまう。だから私はこのような質問をした。

そのような点を考慮し、下水道計画の整備状況はどうか、整備されていたとしたら湛水はかなり減ったのではないか。それをまず教えてほしい。

【小林副課長】

高田地区の雨水幹線整備率は、53.7パーセント、市全体ではまだ30パーセントぐらい。高田区は人口が集中していることから、市の中では整備率が高い。

次に、雨水幹線整備箇所と浸水被害の関係について。今回は、雨水幹線の整備が終了した場所でも浸水被害が発生している。水戸の川排水機場近くで農地が冠水したが、その農地の地盤高が8メートルくらいなのに対し、北城町の浸水箇所では7メートル台。排水機場よりも北城町の方が低く、雨水幹線が満管状態になると北城町側へ流れてしまう。東本町にある排水ポンプについても、青田川の水位がポンプ排水口より上昇したため排水できずに浸水した。

【澁市委員】

先ほど、毎秒2トンの能力があるポンプを運転したが、湛水があったと。私どもは、台風21号のような雨が降った場合に排水機場の能力が不足すると理解してよいか。あるいは、排水機場までの雨水幹線やその他の排水路の容量が不足しているのか。湛水の原因を知りたい。

排水機場の能力が不足しているという説明があったが、それなら国土交通省に言わなければいけない。そこまでの雨水幹線等の排水路の能力が不足しているなら、その整備を進めてもらわなければいけない。私どもは間違った意見を言えないので、そこを教えてほしい。

【中村副課長】

毎秒2トンという排水機場のポンプ能力は、市が基準としている雨水の処理能力には到底及ばない。それをしようとすると、水戸の川で計画される排水能力は、自然流下で毎秒20トンくらいになるので、10倍くらいのポンプが必要になる。

今回の湛水原因がどこにあるかということだが、関川の水位が上がったことで樋門を閉めたので、自然流下能力がゼロになってしまった。それを全部ポンプで処理しようとすると毎秒20トンで出さなければならない。また、現況の水戸の川の能力はそこまでないから、降った雨が排水機場までたどり着かない。したがって我々が考える7年に1回の降雨確率の雨が降った場合、関川水位が上がっても、全て処理することになれば雨水幹線を全部整備し、かつポンプを毎秒20トンクラスまで増やさなければ目標に到達できないというのが現状。

基本的には自然流下で関川に流すのが最も効率的であり、樋門やポンプは臨時的、緊急的に操作し、運転するもの。ポンプについては全ての水を排水することを目標にするのではなく、少々の道路冠水や農地冠水等を許容しながら、床上浸水だけは防ご

うということ国交省では目標にした。

今後、関川水位が上がるような降雨ではなく、例えばゲリラ豪雨なども心配していくとなれば、宅地内の雨水幹線整備も着々と進めていかなければならないと思っている。

【西山会長】

前回、説明が難しく内容が理解できないということで視察研修を行い、今回も説明を聞くことになった。今の説明で理解できていればよいが、このまま続けてよいか。

また、澁市委員の質問は難しかったことから、今回このようにした。必要なら、個人的に各担当課へ質問をされたらよいのではという意見もあり、このようにした。全ての質問を説明する時間もとれるかわからなかった。かいつまんで説明してもらえばよい。

【澁市委員】

それは分かるが、それなら文書で回答があれば事前に読むことができた。質問を出すように依頼があったから、きちんと書いて出した。それを無視されたことに憤りを覚える。

7年の降雨確率だと47ミリくらいだと思う。台風21号はどれくらいの降雨量だったか、20～30ミリ程度だったはずだが。

【小林副課長】

最大20ミリくらい

【澁市委員】

その程度で、こんなに湛水被害が出ているのか。

【中村副課長】

高田に20ミリ降っただけではなく、関川の上流域で広い範囲に集中的に降ったことにより、関川の水位が上がったということが今回の特徴。何年か河川を担当しているが、関川の水位が上がった経験はほとんどない。それが今年7月と10月に2回続いた。

関川は、他の河川と比べて非常に高い安全率を持った河川。その関川の水位が、妙高など上流部で雨が降ることで上がってしまうと、こちらの低平地からはなかなか水が流れていかないという状況になってしまう。

高田ではそれほどの雨ではなかったが、最後の関川への出口がふさがれてしまったことから、持っている能力を十分に発揮できなかったのが理由だと思う。

【杉本委員】

当日、関川の水は稲田橋の橋げたまで1メートルを切っていた。水戸の川排水機場の操作員と話をしていたが、そこに表示された関川水位は確か8メートルを超えていた。

当日配布資料No.4の地図には、東本町4丁目近くの堤防上の標高が8.79メートルと書かれている。水位が8メートルを超えたので、もう少し関川の水が増えると堤防を越えるという状況だった。

ここには住宅の被害状況だけ書かれているが、これでは実態がよく分からないと思う。実際には、オレンジの網掛けが付けられた所を中心により広い範囲で水がついている。排水機場の近くの田んぼは、半分しか網掛けが付けられていないが、北城神明宮のさらに南までずっと水がついた。この図の3～4倍の面積で水がついた。それがうまい具合に遊水池になった。

水戸の川排水機場で見ていると、樋門を閉めたのに水が流れていた。北城町の網掛けがたくさんある所へ、みんな流れていった。

ポンプを動かしているのにそのような状況だった。あのポンプは毎秒2トンというが、半分位しか出ていないのではないか。設置した時は直径75センチだったかの排水口満杯で出ていたのが、今は半分しか出ていない。それを国土交通省職員や保守業者に話したが、彼らは取り合ってくれなかった。

いつだったか高土町の方が私を訪ねてきて、「最初に試験運転した時の写真も、今回の写真も持っているが、比べても水が半分しか出ていない。」と。だから、能力の点検をきちんとする必要がある。

高田区地域協議会でこれだけ議論しているのだから、あの時にいち早く来て見てほしかった。議論していないならまだよいが、あの3週間前に皆さんと一緒に現場を見て回ったのに、水害が起きた時に皆さんの姿は見えなかった。樋門操作員も、なんだとこれはという意見だった。

私は、原因は排水機場の能力不足だと思う。あの能力を上げることを、当面まず優先しなければならない。本当に毎秒2トン出ているかを確認し、おかしいとなれば対

策をとらなければならない。この確認がまず大事だと思う。

【西山会長】

杉本委員に、簡潔な発言を求める。

【杉本委員】

二つ目は、本当に2基でよいのか、用地もあり設備も全部そろっているのだから、3基にする必要があるのではないかとということ。

三つ目は、北堀の出口から北城神明宮をまっすぐ行って、関川に水を出す排水管を掘り、最後にポンプをつけて水を出すようなことを考える必要があるのではないか。

そのような総合的な対策を考えていかないと、これはまた起きる。

今回、北城町で浸水した水を見て思ったのは、きれいな水ばかりだったということ。7. 1 1 水害の時は泥水で、側溝に泥を置いて行ったし、道路に10センチくらい置いて行った所もあった。しかし、今回は泥を置いて行かなかった。これは、雨水が流れて行かずにあふれたものであり、川の水が逆流してきてはいないということ。

私は現場で見ていたから、このようなことを言える。問題になっている所だから、皆さんはその実態を見て、どのような対策が必要なのかということを考えてもらわないといけない。この問題は、机の上でいくら見ても駄目だと思う。

【中村副課長】

当日は対岸の現場にいたが、朝5時過ぎくらいにポンプが動くという連絡を受け、水戸の川の方へ向かった。ポンプが動く頃に、すでに田んぼに水がかなりたまっているのを確認した。水戸の川全体を見るため、大事な住宅が密集している所へ向かうと、その時点ではまだ10センチくらい余裕があったが、図面に網掛けしてある所は8時半くらいには湛水してしまったことは承知している。我々職員も現場へ行っているが、他の場所も見ながらになってしまう、理解を。

ポンプの点検の件は大事な話、承知した。再度、国につなげる。ポンプの点検は年一回必ず行っており、樋門を閉め水位を上げポンプで排水しているのだが、動くことだけの点検で終わっているのか、所定の回転数まで上がり毎秒2トン排水できることまで点検しているのか。皆さんが見て、以前ほど元気がないということなので、国へその旨申し伝えたい。

ポンプが2基ではならず3基必要ではないか、という件については、皆さんから意

見をいただく前、7月にポンプが動いたと聞いた際に2基から3基に増やす時機は今ではないかと伝えてある。国からは、先ほど説明した所定の目標を何とかクリアしているから（現時点では必要性は低い）、というものだった。

ただ、10年に1回というような話なら、我々もそれで分からなくもないが、7月に1度、その3か月後にもう一度と、年に2回という状況。これは樋門操作員にも負担がかかることも含め、非常にお金がかかる話ではあるが、設置スペースがあるのだから何とかしてほしいと国交省に要望したいと思う。

ポンプの点検については、すぐにでも伝えるし、増設についても要望したい。

【小林副課長】

今回、関川水位が上がったことに伴い、樋門管理のため市内全体にかなりの職員が出てしまい、現地確認に動く職員が手薄になってしまった。

これを踏まえ、今後、現地確認体制をしっかりとするために協議を進めている。次回同様な状況が起きた際は、確実に今回以上の職員が現地の状況確認をできるようにしていきたい。今回はなかなか状況把握できなかった部分もあるが、理解を。

【西山会長】

今回の自主的審議は、高田公園のお堀の雨水を関川に排水するということから始めている。それに関する質問を優先してほしい。

【澁市委員】

市では現在、雨水管理総合計画を改定中ということ、市議会一般質問で答えた。その改定にあたり、今回の経験は十分に反映されるか。

【小林副課長】

改定ではなく策定、新たに作っている。

先ほどの指摘のとおり、上越市も污水整備を優先してきたため、雨水整備がかなり遅れている状況。計画的に雨水整備をする必要があると考え、また国でも同じ考えから、市に対し雨水管理総合計画策定を求めている。

雨水管理総合計画は、優先順位を定めた上で時間軸を持って整備していく形の計画。まず今年は優先順位を付ける作業をしており、来年度は優先順位が高い地区において、どのくらいのスパンで整備するかを定めていくように考えている。

優先順位が高い地区に高田公園周辺が入るかどうかは、まだ結果は出ていない

め約束はしかねるが、市街地で比較的優先度が高いこともあり、それなりの順位になるのではないかと考えている。

【杉本委員】

会長から先ほど指摘があったが、外堀が北城雨水幹線とつながっているから、色々な問題が起きている。外堀だけの議論にとどめ、つながっている北城町を議論から除くというわけにはいかない。元はお堀だが、被害が北城町に出ているという関係にあるといことを頭に入れた上で、この問題に対応していかなければならないと思う。

【大滝委員】

ここ何十年の間、高田公園は変わっていないが、北城町から東城町は、昔は家もなく田んぼと谷地ばかりだった。30～40年くらい前から住宅になり、水を飲み込む所がなくなってしまったのに、それに合わせた整備が進んでいない。それなりの整備をしないと当然、水があふれる。そういう点で、整備が遅れていると思う。

【飯塚委員】

同じことを話そうと思っていた。

図面に網掛けしてある所は、30年位前にも全部水がついていた。土地も道路も低い場所で、昭和50年頃から何年も水がついている。

関川を改修したが、まだこのようなことがあるので、やはり排水能力が低いと思う。以前、藤巻の会社に勤めていた頃、藤巻では水が自転車のサドルまで上がった。そのような事態がずっと続いているので、整備に力をいれていただきたい。

【西山会長】

発言をしていない委員に、質疑を求める。

【青山委員】

関川上流で雨が降ったので、高田地区の降水量のわりには関川水位が上がった。それを考えた時、今回皆さんの活動によりこの程度の被害で済んだということについて、成功したと思っているか。それとも、もう少し何かできたのではないかと。

実際に各地で、測候所開設以来の雨や、想像以上の大雨が降っている。視察研修の時に都市整備課長から、7年に一度の大雨に対応できるという説明があったが、今は7年どころか50年、100年に一度の雨が降る可能性がある。もう少し大きな目で見て、対策を練ってほしい。

【杉本委員】

水が出て道路が通行できなくなった時の、通行止め表示板が間に合わなかった所が結構あり、水の中へ突っ込んだという人が何人もいた。透明な水で、浅いと思い行ったら実は深かったということだった。交通規制をもう少し早くお知らせする、良い方策はないものか。

また、飯門田新田線沿いにある栄町のバスターミナル付近も水がついた。住宅に被害はないが浸水した場所が、もっとたくさんあると思う。

高田全体で見た時に、水は上がらなかったが儀明川が危なかったと思う。

【嶋田課長】

一部上がった。

【杉本委員】

上流では上がったが、下流では上がらなかった。これをどう見るのかということも聞きたい。上がらなかったから良かったでは済ませられない状況だった。

【中村副課長】

儀明川上流では河川の水自体があふれ、下流では内水被害が生じている。儀明川自体は治水対策が不十分であり、ダム建設も含め、川の流下能力自体を高めていかななくてはいけないと思っている。

【西山会長】

予定した時間になった。

今日は自主的審議で、台風について説明を受けた。今後は委員で、自主的審議を進めるので、お願いしたい。

他に質問がある場合は、澁市委員の質問も含め、文書で回答いただく形を取りたい。文書回答で分かることは、文書で質問することを諮り、委員全員の了承を得る。

【山本委員】

澁市委員の質問は非常に分かりやすい。可能なら、市から文書で回答いただけないか。

【嶋田課長】

本日、回答は用意してきており、会議の中で答える予定でいたが、皆さんの意向で省かれた。文書回答を求められれば、対応する。

【西山会長】

それが地域協議会の総意なら、市へ文書回答を求めることとする。文書回答を求めることを諮り、委員全員の了承を得る。

市へ、文書回答を求める。

本日この後、自主的審議に入る時間がないため次回以降とすることを諮り、委員全員の了承を得る。

—事務連絡—

【西山会長】

「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・協議会等日程 1 2月18日（月）午後6時30分～ 高田公園オーレンプラザ
1月15日（月）午後6時30分～ 高田公園オーレンプラザ
2月19日（月）午後6時30分～ 高田公園オーレンプラザ

- ・配布資料

お馬出しものがたり（お馬出しプロジェクト）

【西山会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

- ・明日、地域協議会会長会議
- ・議案は二つ、次年度の地域活動支援事業と自主的審議
- ・次回の会議で、内容を報告予定
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 025-522-8831 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。